

令和4年度 小山地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和4年11月17日（木）午後7時から午後8時25分まで
- 2 場 所 小山公民館大会議室
- 3 市側出席者 本村市長、森副市長、田野倉中央区長、山口都市建設局長、大島中央区副区長
川村市民局長
- 4 出席委員等 21人
- 5 傍聴者 4人
- 6 懇談会の要旨

テ ー マ	相模原駅北口地区のまちづくりについて
概要	<p>小山地区まちづくり会議では、昨年度から相模総合補給廠一部返還地に必要な施設や機能について議論し、今年度は相模原駅北口地区土地利用方針に沿ってさらに議論を重ねてきた。その結果「文化ホール（音楽ホール）」、「市役所」、「中学校」、「複合レジャー施設」、「市役所を含めた公共施設」、「体験型施設を含んだ自然公園」、「北口と南口の一体化」等が必要な施設と機能として挙がり、特に「市役所を含めた公共施設」と「北口と南口の一体化」を切望することがまとめた意見となった。今後、進められる相模原駅北口地区土地利用計画の策定にあたり、この意見も取り入れられるよう望むところであるが、このような意見をどのように計画の策定に反映していくのか、また、日常生活に大きく影響を受けることになる小山地区の住民の意見をどのように聴取して計画の策定に取り入れていくかを伺いたい。</p> <p>特に「北口と南口の一体化」については、令和2年度小山地区まちづくりを考える懇談会において、「南北道路と相模原踏切の接続は歩行者等の安全性の確保が難しいことから困難である。しかしながら、駅南北の連携強化は重要であると認識しており、引き続き検討を行う。」との話があった。現在の検討状況とともに、国有財産審議会へ諮るのはいつ頃を予定しているのかを伺いたい。</p> <p>一方、相模原駅北口地区に様々な施設の整備が計画される中、隣接する地区住民にとっては生活環境の悪化も懸念される。主に交通量増加に伴う駐車違反、ごみ問題や犯罪の増加等が挙げられるが、地域の取組としてはパトロールの強化や清掃活動を重点的に進めていく必要があると考えているところである。市には道路の環境整備、市営駐車場の増設や懸念事項に関するルールづくり等が必要であると考えているが、市の考えを伺いたい。</p>
地区の取組状況等	<p>小山地区は相模総合補給廠に隣接する地区として、一部返還以前からこの問題に取り組み、平成19年3月には地域住民で組織した「住みよい小山をつくる会」で一部返還後の土地利用について検討を重ねた結果を「相模総合補給廠一部返還に伴う跡地利用に関する意見書」として市へ提出するなど、市に対して意見や具申を行ってきた。</p> <p>小山地区まちづくり会議では、相模原駅周辺のまちづくりや相模総合補給廠一部返還地の跡地利用については、数年に亘り、まちづくり懇談会のテーマとして取り上げており、平成30年度に取りまとめた「次期総合計画・都市計画マスタープラン 小山地区まちづくり報告書」においても、地区の重点項目として提言し</p>

	<p>ている。さらに、令和3年度からは、小山地区として一部返還地に必要な施設や機能について重点的に議論を続けている。</p>
<p>市の取組 状況等</p>	<p>相模原駅北口のまちづくりを進めるにあたっては、市民や民間事業者などに、アンケート、オープンハウス、ワークショップ、ヒアリングなどの手法で意見を伺いながら、検討を進めてきた。</p> <p>小山地区では、まちづくり会議の中で、ワークショップ形式での意見収集や今後の検討に向けた意見交換を実施していただいていると承知している。</p> <p>今後は、12月7日のまちづくり会議で土地利用計画の検討状況などを報告するとともに、ご意見を伺わせていただきたい。</p> <p>また、土地利用方針においては、商業機能や交流ハブ機能等の5つの機能を検討しており、様々なニーズ等を確認しながら、まちづくりを進める必要があると考えている。</p> <p>また、平成28年に策定した広域交流拠点整備計画で、コンベンション施設の設置や行政機能の移転ということに記載していたが、コンベンション施設については、周辺の経済の状況等から、必要性が変わってきており、行政機能についても、市役所の移転には、かなりの敷地面積も必要になってくるため、現時点では検討会議の中でも考えていない。但し、庁舎そのものではなく窓口などの駅前に必要となる機能については、検討していきたい。</p> <p>土地利用方針を踏まえ、土地利用計画の策定を進めており、今年度は、脱炭素型のまちづくりに向けた、先進技術の導入、再生可能エネルギーの活用、エネルギーを需給する施設のマネジメントの考え方等について、来年度以降は、施設や道路の配置、都市の基盤となる駅前広場やオープンスペース等の検討を行い、令和6年度の策定を目標としている。</p> <p>11月15日に実施した、第3回土地利用計画の検討会議で7つの導入可能なパターンを提示し、様々な意見をいただいた。</p> <p>相模原駅の北口と南口の一体化については、令和2年度に、相模原踏切と南北道路の接続について話をいただき、約2年をかけて検討したが、相模原踏切は歩行者の往来が以前よりも増えており、さらに歩行者が増えると非常に危険となる。自動車については、病院に入る方だけなので、渋滞の問題はないが、近隣の小山踏切は、自動車が多く往来している状況である。まちづくりを進めていく上で、南北の一体化やにぎわいというのは大事なものであり、検討の中でもそうした意見は多く伺っている。現在は踏切か駅の自由通路を渡って往来をしているが、北口のまちづくりが進んでいくと、今以上に広い駅前広場やペDESTリアンデッキ等も計画することになる。それらが北口にできる施設と直接つながることによって、北口と南口の連携が強化されると認識している。それについては、今後も議論していく必要がある。</p> <p>また、国では「ウォーカブルなまちづくり」の実現を推進しており、「歩きたくなるまち」「歩いて生活できるまち」というようなキーワードがある。相模原踏切に、自動車を通常の踏切と同じように通すことは難しいが、歩いて安全に生活できるような形を考えたい。自動車については、北口のまちができることで交通量は多くなるが、小山踏切だけでなく、南多摩尾根幹線と接続する宮下横山台線などのように、横浜線と立体交差になっている道路に誘導できるような都市基</p>

	<p>盤の構築を進めていきたい。</p> <p>道路が生活環境等に及ぼす影響については、にぎわいの創出が進むのに伴い、自動車や人の流れが集中する状況が発生してくる。渋滞が起きないように道路基盤の整備・配置を考えるとや利便性の高まるアクセス方法などを考えていかなければならない。</p> <p>また、道路環境については道路が傷んで穴が開くことや、道路脇に雑草が生えて歩行者等が通りにくくなるなどの状況がある。雑草については、あまり早く刈り過ぎてしまうと、すぐに伸びてしまうため、概ね8月から10月に除草しているが、状況に応じた管理方法などを検討して取り組んでいる。</p> <p>まちづくりについては周辺道路のインフラ整備と併せて、住民、事業者、行政が連携し、より良いまちを育てていくことも目標として考えている。この取組はエリアマネジメントと呼ばれており、相模原駅北口においても、実情に合わせ連携して取り組んでいくことが重要であると認識している。引き続き、状況報告を行うとともに、様々なご意見をいただきながら、まちづくりに取り組みたい。</p> <p>(山口都市建設局長)</p>
--	---

懇談内容	
地区の発言	<p>本村市長に代わってから、これまでの議論がなかったものとされてるように見受けられる。今後も市長が代わると、検討をし直すような状態になりうるのか。</p>
市の発言	<p>広域交流拠点整備計画の策定にあたり、相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会で様々なご意見をいただいた。相模原駅にイメージ図を掲示していたが、検討の中で、実現性を考慮し、不可能な部分を削ったと認識している。(山口都市建設局長)</p>
地区の発言	<p>計画を作るのに、多くの人が多く時間をかけている。それを反故にされたら、今までの取組が無駄であったという気持ちになる。</p> <p>また、相模原駅北口の返還地については、すべて市有地となり、市の意向で開発ができるということで良いのか。</p>
市の発言	<p>平成28年度に整備計画を作った際に、国際コンベンション機能についてイメージを提示しているが、その後、パシフィコ横浜や八王子の産業交流拠点等、3,000～4,000人が入るような施設が周辺に整備されており、実現が難しい状況である。また、横浜線の連続立体交差についても検討してきたが、実現は厳しいという結論に至っている。行政機能についても、今の庁舎を利用すると方向転換している。</p> <p>また、今後はコロナウイルスにも配慮したまちづくりも考えていく必要がある。当時作った計画は反故にしたわけではなく、イメージしていたものは、機能として導入していくことで、進めているつもりである。</p> <p>現在、この土地は、財務省の所管になっている。今後、必要となる駅前広場や道路等の施設の土地は、無償で譲渡をうけることができる制度があるため、市の名義に変えていくことを考えている。</p> <p>民間施設として活用する部分は、現在策定を進めている土地利用計画で、住宅系施設、商業施設等、エリアごとの計画を定め、計画にあった民間会社への売却等を国の諮問機関である国有財産審議会に諮り、土地の処分についての議論をし</p>

	<p>ていただく手続きとなる。(山口都市建設局長)</p>
市の発言	<p>これまで、中長期的な予算や財源の裏付けがない事業であっても、進めることができるという話をしてきた経緯があるが、令和2年10月の段階で、令和3年から9年までの7年間で、今のサービスを続けた場合を試算したところ、816億円の歳出超過が見込まれるという推計結果になった。そのため、予算の組み替えなどが必要であり、行財政構造改革を進めている。</p> <p>皆様には自治会活動をはじめ、青パトの活動、防災訓練等、地域での活動に尽力いただき感謝している。相模総合補給廠一部返還地の跡地利用に関する意見書をいただいたことも承知している。</p> <p>市長が代わることで、方針が変わることもあるが、地域の皆様と目指しているものに関しては継続する必要があると思っている。</p> <p>そんな中で、小田急多摩線延伸などは、実現すると考えている方が多いと思うが、小田急多摩線延伸の関係者会議で、唐木田からの一括整備は難しいため、段階的な整備となるという方針が出た。また、国土交通省からも、なかなか難しい話であると聞いており、小田急電鉄からは、延伸の計画はないと言われている。</p> <p>本市としては、相模総合補給廠一部返還地のまちづくりを示し、小田急多摩線を延伸させたいようなまちづくりをしていく必要があると考えている。</p> <p>小田急多摩線延伸は東京都、神奈川県、多摩市、町田市といった自治体が協力していく必要がある。</p> <p>広域交流拠点整備計画の実現が難しい状況にあるにも関わらず、過去、相模原駅にはイメージ図が掲示されていた。</p> <p>横浜線の連続立体交差も約1,100億円が必要となり、簡単な話ではないが、相模原駅南北一体化の第一歩だと思っている。</p> <p>市長に就任した時には多くの事業が止まっており、事業を進めるにあたって、市民の皆様には、事実を伝えていこうと職員に話している。(市長)</p>
地区の発言	<p>これまで、議論していたことがゼロになっているようなイメージがあったが、そうではないという話であった。そのような点は丁寧な説明をお願いしたい。</p>
市の発言	<p>市の説明が足りなかった点はお詫びさせていただく。ただ、過去にいただいた話は、私たちの財産である。すべてを撤回したわけではなく、積み上げたものはさらに積み上げていくつもりであるが、そもそも積み上がっていなかった部分もある。これまで、皆様に対して、実現不可能なことも実現可能であると話をしてきたこともあると思っている。</p> <p>麻溝台・新磯野第一整備地区土地区画整理進事業についても、3年間をかけて内部検証等を行って再スタートをした。多くの事業で、再検証をしながらスタートしている。</p> <p>台風被害や新型コロナウイルスなどがあり、皆様の描いた絵と違う部分があり反省しなければならないが、議論して積み上げられたものに関しては、市長が代わろうが、つないでいきたい。(市長)</p>
地区の発言	<p>小田急電鉄で延伸は考えていないということであるが、以前は新宿駅から百合ヶ丘駅まで複々線工事を行っており、これが一段落すれば検討できるのではないかという話もあった。市として絶対に延伸するという考え方をもち続けていただ</p>

	<p>きたい。連続立体交差についても同じである。市長が代わっても長期的に一貫して進めていただきたい。</p>
市の発言	<p>市としても小田急多摩線の延伸を願っており、町田市と共同で、様々な角度からの調査を行っている。小田急多摩線延伸には関係5自治体が、常に同じ方向を向いている必要がある。お互いに確認し合いながら、進めている。(森副市長)</p>
市の発言	<p>平成28年に交通政策審議会で、一步前進した答申があった。皆様の署名活動等の熱意が、国土交通省に伝わった結果であると思っている。また、市としても、関係自治体に働きかけを継続している。</p> <p>一方で、小田急電鉄からは、採算が取れないことはできないし、過去に小田急多摩線延伸に関し、事業決定したことはないと聞いている。こういった事実を市民に伝えて、一緒に取り組むことが大切である。</p> <p>厳しい現実もあるが、相模総合補給廠一部返還地の土地利用計画をしっかりと示して、小田急電鉄が来なくなるまちづくりをしなければならない。(市長)</p>
地区の発言	<p>土地利用計画の検討会議の進捗を教えてください。</p>
市の発言	<p>今年度は、土地利用計画の策定に向けて脱炭素社会を視野に入れた取組を行っている。11月15日に行われた土地利用計画の検討で、スタジアムの有無、エネルギー消費、再生可能エネルギーの導入、エネルギー需要のマネジメントなどの観点から7パターンのイメージを提示した。12月には、まちづくり会議の場で途中経過を報告させていただきたい。皆様の意見を伺いながら、土地利用計画の策定を進めていきたい。(山口都市建設局長)</p>
市の発言	<p>補給廠返還に関して、15ヘクタールのまちづくりということで検討しているが、今後は全面返還を目指して取り組んでいきたい。</p> <p>相模総合補給廠一帯は、本市の中でも非常にすぐれた可能性を秘めている場所の一つだと思っている。(市長)</p>

市長の感想等	<p>こうして皆様と対話する機会は貴重であると考えているので、今後もこういった場を設けていきたい。</p> <p>庁内分権を進めており、中央区長がいるので、遠慮なくご意見をいただきたい。また、若手でも経験を積んでいる職員でも、すべてが市長の発言であるにとらえていただきたい。</p> <p>よく自転車で補給廠の周りを見ているが、東西道路の夜の暗さや、雑草の繁茂など治安上よくないと感じることもある。南北の一体化についても、ご意見をいただいでからすぐ警察やJRなどと調整をしたが、難しい壁にぶつかっている状況ではある。</p> <p>私も市長になって、決断の毎日であるが、これからも勉強させていただきたい。また、事業の継続性については加山市長からバトンを受けて、次の市政につなげていくので、ご安心いただきたい。</p> <p>これから令和6年度に向けて、土地利用計画を策定して参るが、脱炭素という、キーワードもある中で、某事業者からスタジアムの建設について話を受けているが、脱炭素とスタジアム構想では相反する部分もある。</p> <p>小田急多摩線の延伸について、市民の皆様、議会の皆様と連携をし、諦めずに活動していくことが、突破口であると思っている。国土交通省や関係自治体で小</p>
--------	--

	<p>田急多摩線延伸を大きな目標にして、取り組んでいくのでご協力いただきたい。 貴重なご意見をいただいたことに感謝し、本日の御礼とさせていただきます。</p>
--	---